

みんなで発見「地域資源ポロトの森」

胆振東部森林管理署 塩谷 昌土
中西 誠
若松 ちさと

1. 課題を取り上げた背景

平成 23 年 11 月、白老町で「地域資源ポロトの森の将来－活用から保全を考える－」というテーマで森林フォーラムが開催されました。このフォーラムでは、ポロト自然休養林の活用や保全等について観光学の有識者と地域関係者によるパネルディスカッションを行い、地元の参加者からも貴重な意見が出ました。

フォーラムの提言等を受けて、地域資源（地域の宝）としてポロトの森を今後どう発展させていくか検討し実現するために、森林管理署の呼びかけで、関係者が連携・協働する協議会が発足しました。

2. 取組みの経過

平成 24 年 7 月に森林管理署、白老町、観光協会等 6 団体による「地域資源ポロトの森」パートナーシップ協議会を設立しました。現在まで協議会を 3 回開催し、主に以下の検討事項で意見交換や現地見学を行いました。

- ① ポロトの森及びその周辺の地域資源について
- ② 地域資源の商品化（保全・活用）について
- ③ 消費者（観光客）へのマーケティングについて
- ④ リスクマネジメントについて
- ⑤ 人材育成について
- ⑥ 関係者の協働のあり方について
- ⑦ 「ハリギリの巨木」の今後の活用（特に学習の場としての活用）について

3. 実行結果

ポロト自然休養林の魅力やその活用のあり方等について、関係者・有識者で改めて見つめ直し、積極的に意見交換をする機会が生まれました。

ポロト自然休養林は、白老町の市街地に位置し、地域住民に親しまれているものの、町外での知名度は低く、PR が不足しているとの指摘がありました。すぐに来れる取組として、署が作製したパンフレット「ポロトの森ガイド」を普及させるため、北海道森林管理局 HP への掲載や、観光協会を中心に各団体の協力を得て、町内外の駅や観光スポット等に置かせてもらいました。

各団体の取組状況や利用者の実態を知ることにより、これまでと違う視点での魅力等を発見することが出来ました。アイヌ文化と自然の関わりをアイヌ民族博物館が伝えていることや、日本一と評されるセンノキをはじめとする巨木群を、自然ガイドが夏から秋にかけ環境教育の場として活用するとともに、町が巨木認定の申請へ向け取り組んでいます。

また、各団体に共通して、枯損木や蜂等の安全対策や、希少植物の採取禁止等のマナー対策の具体化が課題とわかりました。

4. 考 察

自然休養林は、優れた自然景観を有し、森林浴等森林レクリエーションに適した森林として、国民のみなさんに開かれている森林ですので、誰でも安全で快適に利用できることが重要です。

ポロト自然休養林においては、本協議会の開催により、①地域資源として新たな魅力を見出すこと、②関係団体及びその利用者のニーズを把握すること、③継続的な安全対策、④情報発信、⑤関係団体の連携・協働による具体化等、今後に活かせる取組ができてきたのではないかと思います。

協議会は始まったばかりであり、関係者との話し合いが深まるにつれて、新たな課題や問題点が出てくると思われますが、ここで交わされた意見が軸となり、今後の具体的な活動に発展していけるようにしたいと考えています。